

第46回　「MCP: Advanced Topics」
Anthropic 公式 Claude Academy

Claude Code

触っていい場所の実演

公式の教材を、順番に

原石工房
隠れた才能に気づき、花開く

この資料について

原石工房

Anthropic とは関係のない、非公式の資料です

公式の学習サイト Claude Academy の日本語訳です

原文（英語）MCP: Advanced Topics ／ Roots walkthrough

この回は、画面の中で1段ずつ追う形の教材です

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

全51回の、今日はここ

原石工房

Claude Code 101 — 第1回〜第12回

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

Claude Code in Action — 第13回〜第21回

13 14 15 16 17 18 19 20 21

スキル — 第22回〜第27回

22 23 24 25 26 27

手分け（subagents） — 第28回〜第31回

28 29 30 31

MCP 入門 — 第32回〜第40回

32 33 34 35 36 37 38 39 40

MCP 応用 — 第41回〜第51回

41 42 43 44 45 **46** 47 48 49 50 51

今日はここ　第46回

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

今日のレッスン

原石工房

MCP: Advanced Topics の第6回

原題　Roots walkthrough

訳　触っていい場所の実演

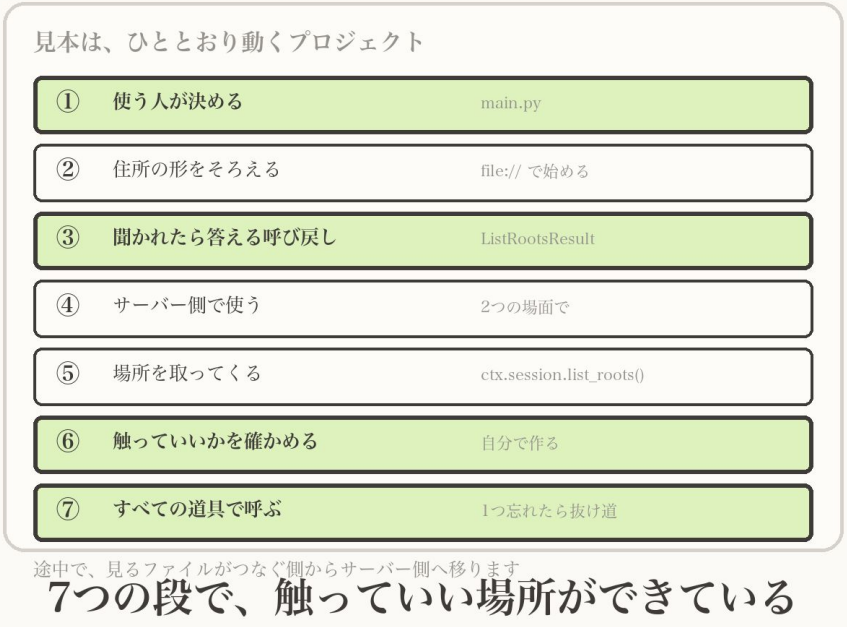
前回の触っていい場所を、実際にどう書くのかを7段で追います

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

① 7つの段と、見るファイル

原石工房

原題 Tutorial Steps



7つの段で、触っていい場所ができている

使う人が決める、住所をそろえる、聞かれたら答える

サーバー側で使う、取ってくる、確かめる、すべての道具で呼ぶ

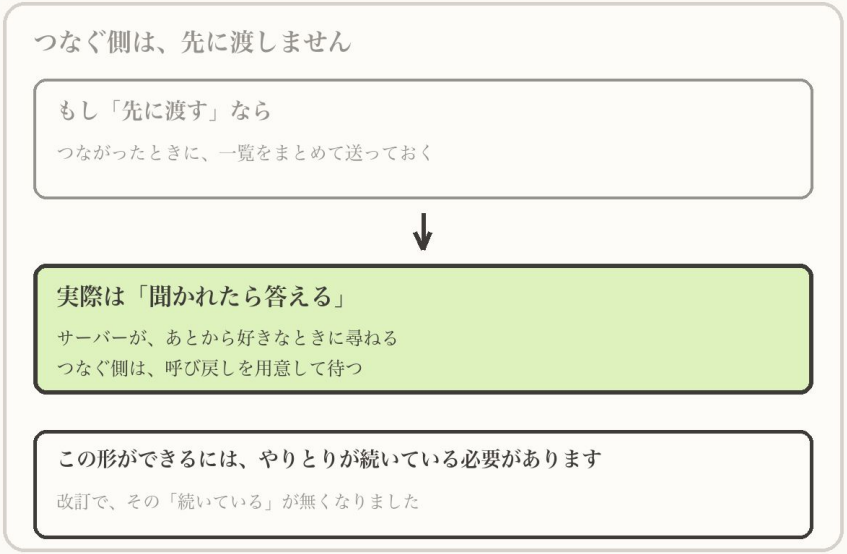
見本は、ひととおり動くプロジェクトです

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

② 渡すのではなく、聞かれたら答える

原石工房

原題 Roots callback



サーバーから尋ねる形が、ここに出ている

つなぐ側は、場所の一覧を先に渡しません

サーバーが、あとから好きなときに尋ねます

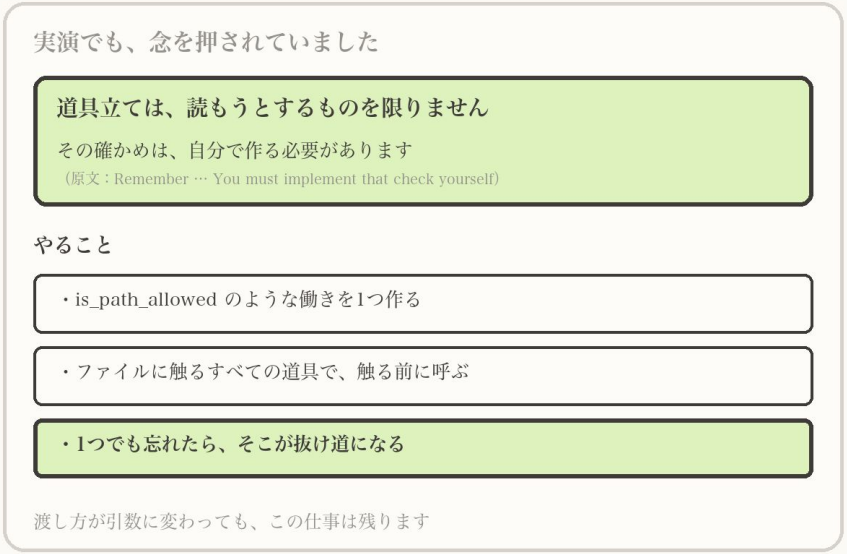
この形ができるには、やりとりが続いている必要があります

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

③ 確かめるのは、自分

原石工房

原題 Authorizing access



仕組みが変わっても、ずっと残る仕事

道具立ては、読もうとするものを限りません

is_path_allowed のような働きを1つ作ります

ファイルに触るすべての道具で、触る前に呼びます

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

決める場所と、確かめる場所は違う

原石工房

決めるのは、いちばん外側

- 使う人が main.py で決める
- サーバーが勝手に決めるものではない
- 住所は file:// の形にそろえる

確かめるのは、道具の中

- is_path_allowed を自分で書く
- ファイルに触る前に、必ず呼ぶ
- すべての道具で呼ぶ

この2つは、別の場所の、別の仕事です

決めても、確かめなければ守られません

道具立ては、どちらも代わりにやってはくれません

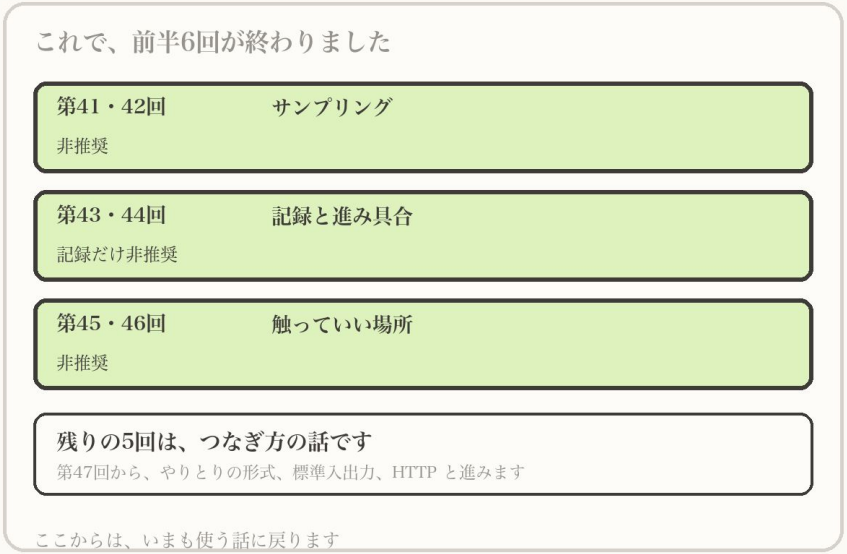
決める場所と、確かめる場所は違う

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

※ 補足　これで、非推奨の3つが終わりました

原石工房

ここから先は原文にありません



非推奨の3つは、ここまで

第41回から始まった前半6回が、今日で終わりです

残りの5回は、つなぎ方の話。いまも使います

第47回から、やりとりの形式、標準入出力、HTTP と進みます

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

※ 補足　乗り換え先では、どうなるのか

原石工房

公式が示すのは「道具の引数・資料のURI・サーバーの設定で渡す」

つまり、尋ねるのをやめて、先に渡すということです

そのぶん簡単になりますが、途中で場所を変えられなくなります

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

今回のまとめ

原石工房

触っていい場所は、使う人がいちばん外側で決める

つなぐ側は渡さない。サーバーが尋ね、呼び戻しが答える

確かめる働きは自分で書き、すべての道具で呼ぶ

出どころ＝ Anthropic 公式 Claude Academy「MCP: Advanced Topics」／
https://academy.claude.com/courses/model-context-protocol-advanced-topics/roots-walkthrough ／ 非公式の日本語訳

決めたことは、どこで守られていますか



原石工房

隠れた才能に気づき、花開く